



学びを明日につなぐ～令和6年度嶺南教育実践フォーラムを終えて～

開催テーマ「"子ども"を学校の主語にする」のもと、3日間の開催期間中、県内のみならず他県からも、のべ350名の方々にご参加いただきました。嶺南の先生方の実践を聞いたり、共に語り合ったりする中で、子どもたちのどんな姿を目指し、私たちはどうあればよいのかを問い直す素晴らしい学びの場となりました。発表者の皆様、そして共に学びを深めてくださった参加者の皆様に心より感謝申し上げます。ここでのつながりをもとに、さらに学校同士、先生同士がつながって学びが広がっていくことを願います。参加者の感想から、各セッションを振り返ります。

特別講演 「主語を『子ども』に変えて見えたもの」 元大空小学校長 木村泰子氏

- 「これがあるから子どもが主語になれないもの」を学校全体で話し合い、意識改革をしていくことが大切だと思いました。そこがスタートだと思います。
- 私自身もこれまで「がちがちに」固まった考えで子どもと接し、「指導」してしまっていたのですが、目的に向かう中では、ある程度自由に子どもの「支援」をしていくのもいいかなと思いました。
- 「子どもを主語に」するために自分はまだまだ大きく転換しなければならないとつくづく思いました。しかし、自分をアップデートできる職業でもあるので、その点は幸せだと思います。子どもの学びのパートナーになるために明日からまた頑張ります。



テーマA：学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成

- 中学校の社会科で複線型授業に挑戦されていることが刺激になりました。複線型の長所と改善点を明確にして、一人一人が主体性を発揮できる授業づくりを岡山県でも進めていきたいです。
- 「Which型発問」「3観点の問い返し」という視点により、道徳的価値に近づく、自分事で考える、揺さぶりながら思考を深めることにつながっていくと感じました。
- 「小学校の外国語ではとことん英語を楽しませる!」というお話を聞き、改めて子ども目線の授業づくりをしたと思いました。
- 国語の授業では、子どもたちの問いをもとにした授業づくりをすることで主体性は大きく変わりました。
- 振り返りをノートに書かせるよりICTを活用した方が時間的にも、子ども同士の共有の面からも有効であることを改めて感じました。
- 自己調整型の授業を実践したいと思いつつなかなか思うように進まず悩んでいたところでしたが、素晴らしい実践をお聞きして勇気が出ました。レギュレイトフォームも使わせていただきます。
- ChatGPTをうまく活用してルーブリックを作成しているところが素晴らしいと思いました。探究の発表についても、学びの過程を含めた設定にしてあり、生徒の側に立ちつつ真の学びに向かう構想になっていると感じました。

テーマB：誰もが安心して学べる教育環境づくり

- 校内サポートルームについての事例を紹介していただき、チームで関わることやその子の得意なことを伸ばす関わりにより、児童の変容が見られ、とても勉強になりました。
- 福井県版ポジティブ教育というものがあることを初めて知りました。教師も子ども達も前向きに学校生活を送れることは理想だと思います。学校で取り組みやすい内容をまずは先生方対象にやってみようと思いました。
- もっと大人は子ども達の感じていることを聞かなければならないと反省しました。安心な環境を作るには、まずは気にかけられているという実感、大事にされていると思う感覚を教師が知ることが必要だと思いました。
- これまで良かれと思ってやってきたことは過剰支援であって、子どものためではなかったと気づかされました。全教員が自己調整学習について学び、考え、意識的に取り入れることで子ども達は6年間で着実に力をつけていくのだろうと思いました。

テーマC：ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成

- 地域とのつながりを大切にしつつ、生徒の自信やスキルを伸ばしていく取り組みについて学びました。
- 元生徒会長があつた場でコメントした姿が印象的でした。「生徒と教員はチーム」という言葉を裏付ける姿でした。

発表の資料や動画は3月10日(月)までご覧になれますので、ぜひご活用ください。どなたでもご覧になれます。嶺南教育事務所のホームページから、お知らせしているパスワードを入力してご覧ください。パスワードがわからない方は研修課までお問い合わせください。

《問い合わせ》
研修課 0770-56-1302